

障害者支援関係者のコーディネート役は、誰？

障害児・者関係で『共に生きる社会』の実現を目指しての各関係機関・者の連携のあり方をテーマとする研修会等の案内をよく目にする。

そのこと自体は喜ばしいことであるが、どうも今一いつも疑問に思う側面がある。

障害児・者の支援には、本人、家族、医療、福祉、教育、就労等々の関係機関・者の連携が絡んでくる。

そうした多職種のプロが障害のある一人にどう支援・連携してプログラムを組むのかのコーディネート役は誰が担うのだろうか。

そうでないと、関係機関・者がそれぞれの立場から良かれと思ってアドバイスしても、「船頭多くして、船山に登る」になりかねない。

対象者の年齢の問題はさておき、介護保険制度では、介護を必要とされる方のためにケアプラン（介護サービス計画）の作成や介護サービスの調整・管理を行うケアマネジャーが、社会システムとして整っている。

その主な役割は、「1）要介護者の課題分析とサービスとニーズの把握 2）ケアプラン（介護サービス計画）の作成 3）サービス担当者会議の運営 4）ケアプランの継続的な管理と再評価 5）介護支援サービスの記録」であり、月に1回の訪問とモニタリング（再評価）をして、ケアプランの見直しを行い、継続的な管理をすることになっている。

介護保険制度では、国民みんなが相互扶助の前提で介護保険料を納めているということが社会制度となりえてる大きな要因で、だからこそケアプランのために、関係機関の調整を担う者としてケアマネジャーが社会的に指定されているのかなど、つい思ってしまう。

翻る返って、障害児・者関係機関間でいくら連携、調整といっても、現状ではそうした打ち合わせ会合の場を設けるには、その関係機関の理解と関係者の熱意に頼らざるを得ない側面が多いのでないだろうか。

障害児・者の支援問題でこうした継続した関係機関・者のコーディネート役を担い、その時点の本人にベターな支援プログラムを作成し、継続してモニタリングしていく任は誰が担うのか？というのが、いつも疑問に思う側面である。

こうした側面の課題をどう乗り越えて社会システム化していくか、連携のあり方をテーマとする研修会を開催する方々に、そこに踏み込む視点からの企画力を期待したい。

あれこれご意見を、お聞かせください。